

2025 年 12 月 25 日 一部改正
2025 年 7 月 30 日 技術委員会 審議
2025 年 12 月 19 日 国土交通大臣 認可

SPS コードの適用

改正対象

鋼船規則 O 編
鋼船規則検査要領 O 編

改正理由

IMO では、船上で特殊な作業に従事する人員（Special Personnel: SP）が 12 人より多く乗船する船舶（Special purpose ship: SPS）に対して適用できる非強制的特殊目的の船コード（SPS コード）を規定している。

当該コードは、SP が船舶の安全に関する知識を有していること等を考慮して、通常の貨物船に対する要件より厳しく、旅客船に対する要件よりは厳しくない要件を適用して SOLAS 条約と同等の安全性を求めるものである。

今般、SPS に該当する船舶に対して、安全な航行のために、鋼船規則 O 編に具体的に規定された要件に加えて SPS コード等の要件が適用できるよう、関連規定を改める。

改正内容

SP の合計人員が 12 人を超える船舶（最大搭載人員の多い船舶）については、鋼船規則 O 編に具体的に規定された要件に加えて、特別な考慮（SPS コードの準用等）を払わなければならない旨規定する。

施行及び適用

2026 年 1 月 1 日から施行

規則の節・条タイトルの末尾に付けられたアスタリスク (*) は、その規則に対応する要領があることを示しております。

ID:DX25-05

「SPS コードの適用」 新旧対照表

新	旧	備考
鋼船規則 O 編 作業船 1 章 通則 1.1 適用及び同等効力 1.1.1 適用* (-1.から-4.は省略) -5. 旅客船以外であって、国際航海に従事する総トン数 500 トン以上の、少なくとも 1 人の洋上施設上で作業を行う人員 (IP) が乗船する最大搭載人員の多い船舶(ただし、非自航船を除く)にあつては、本章の規定に加え、附属書 1.1.1-5.「洋上施設上で作業を行う人員を運送する船舶」にもよらなければならない。 -6. 旅客船以外であって、少なくとも 1 人の IP が乗船する最大搭載人員の多い船舶であっても、国際航海に従事しない船舶又は総トン数が 500 トン未満の船舶は、附属書 1.1.1-5.「洋上施設上で作業を行う人員を運送する船舶」によらなくても差し支えない。ただし、当該船舶は本章の規定に加え、特別な考慮を払わなければならない。 <u>-7. 前-5.及び-6.以外の船舶であって、最大搭載人員の多い船舶は本編の規定に加え、特別な考慮を払わなければならない。なお、旅客及び船上で特殊な作業に従事する人員 (SP) は、最大搭載人員に含めなければならない。</u>	鋼船規則 O 編 作業船 1 章 通則 1.1 適用及び同等効力 1.1.1 適用* (-1.から-4.は省略) -5. 旅客船以外であって、国際航海に従事する総トン数 500 トン以上の、少なくとも 1 人の洋上施設上で作業を行う人員 (IP) が乗船する最大搭載人員の多い船舶(ただし、非自航船を除く)にあつては、本章の規定に加え、附属書 1.1.1-5.「洋上施設上で作業を行う人員を運送する船舶」にもよらなければならない。 -6. 旅客船以外であって、少なくとも 1 人の IP が乗船する最大搭載人員の多い船舶であっても、国際航海に従事しない船舶又は総トン数が 500 トン未満の船舶は、附属書 1.1.1-5.「洋上施設上で作業を行う人員を運送する船舶」によらなくても差し支えない。ただし、当該船舶は本章の規定に加え、特別な考慮を払わなければならない。 (新規)	

「SPS コードの適用」 新旧対照表

新	旧	備考
<p>鋼船規則検査要領 O 編 作業船</p> <p>O1 通則</p> <p>O1.1適用及び同等効力</p> <p>O1.1.1 適用 (-1.から-3.は省略) <u>-4. 規則 O 編 1.1.1-7.にいう「特別な考慮」とは、本 会が適当と認める対策（例えば、SPS コードの準用又は 最大搭載人員が多いことにより生じるリスクの分析及 びその対応）を講じることという。</u></p>	<p>鋼船規則検査要領 O 編 作業船</p> <p>O1 通則</p> <p>O1.1適用及び同等効力</p> <p>O1.1.1 適用 (-1.から-3.は省略) (新規)</p>	<p>IP が乗船しない最大搭載 人員の多い船舶につい ては、特別な考慮（SPS コ ード等）を適用するよう に追記する。</p>
<p>附 則</p> <p>1. この改正は、2026 年 1 月 1 日から施行する。</p>		